

# 幼 児 童 話 の 發 展

法政大學教授 波 多 野 完 治

アメリカの幼児童話で、今一番子供にすかれてゐる作家は誰か。それはマーガレット・ワイズ・ブラウンという若い女流作家である。まだ三十歳そこそこの獨身婦人で、幼児童話をかき出してから七八年にしかならないが、この間に五十餘種の繪本を出版し、その總計約百萬部をうりつくしてゐる。

最近出た「小さいうさぎのおやこ」という童話などは、初版七萬五千部を印刷した、というからこれだけでも、本屋が彼女の繪本の賣行きにいかにも自信をもつてゐるかがしられる。繪本はアメリカでも三ドルから五ドル位するので、廉價版の出る大衆小説のように、何十萬部もうれることはないのである。

ブラウン女史の幼児童話はなぜこんなに子供たちの間に人氣があるか。これにはいろいろの原因がある様であるが、これを三つにわけて考えることが出来るようである。

(一) 第一は裝釘が變つてゐること。ブラウン女史の本は、今までのように表紙が紙で出来てゐる許りでなく、たとえば動物の繪本などだと毛皮のようなフカフカした表紙にな

つてゐる。——つまりうさぎやくまが、子供に「さわられる」のである。ときにはそれを「食べる」ことも出来る。それはビスケットのように食物でできてゐるわけではないが、たべても毒にならない、品物で出来てゐる。このように本が、唯觀念と視覺とにうつたえるだけでなく、ほとんどあらゆる感覺にうつたえるようになってゐる。ブラウン女史の考えでは、子供は五歳位まで感覺生活が上昇して行く、それに應じて、彼等はあらゆる感覺の點で、大人よりずつと敏感で、又その感覺のたのしみが大きい。だからこの年ごろまで、大人は子供のあらゆる感覺、特に「觸、臭、味」を充分満足させ、發達させるように配慮してやらねばならない。又このころまで、子供の感覺は相互の間に分化しておらず、あらゆる感覺が融合してゐるから、視覺だけを満足させる繪本は不適當である。五歳以後になると、視覺の優位があらわれて來て、又大人の世界の影響で觀覺的なワタが出来てくるので、繪本もそれに適當したように變化していかなねばならない。こういう考えから彼女はいろいろ

感する本「Fairy book」をこしらえ出したわけである。

(2) 次に女史の本はごくすくない單語がつかつてあるが、このごくすくない單語とまじつて、めずらしい、むずかしい單語が出て来る。今までの幼児教育の理論では、單語がやさしくなければいけない。という方面ばかり説かれて、むづかしい單語を入れる方面はとかれなかつた。ブラウン女史の考えによると、子供は一冊の本のなかに二つか三つ位めずらしい、むづかしい單語があるのは、少しも理解に困難ではないし、そのむづかしい單語をよくおぼえるものである。一體子供は出来さえすれば、むづかしいコトバをおぼえたり、つかつてみたがるものなのである。そうして、その言葉の表現性をはつきりつかむことも出来る。又、たとえその言葉の意味がわからなくとも、繪本をたのしむのに差支ない。ということだつてないとはかぎらない。たとえば、自分(ブラウン女史)は小さいとき、フランス語でかいた繪本をよんでもらつたことがあるが、自分にはフランス語は少しもわからなかつたけれどもその發音の面白さと、繪とで、けつこう楽しかつた。このように發音の面白い、じかしむずかしい言葉というようなものを上手に繪本の中に入れることは、繪本を面白くし、印象的なものにするのである。

(3) このような特長の外に、なんといつても彼女の本の特長は話の内容にある。その内容は多く動物の話で、未知の地方の仔動物の生活である。半分動物の習性にもとづき、

半分架空のものがたりである。だが、この架空の物語がどうして子供の心にうつたえるようにかかれるか、その原因をさぐるためには、我々はミッチェル女史の説を知らなければならぬ。

ブラウン女史が童話をかきはじめたのは彼女がニューヨーク市の實驗學校の幼稚園につとめていたときであつた。この實驗學校はアメリカの進歩的教育の發生地であつて、ことにその保姆養成所はいい仕事をしているがブラウン女史はこの幼稚園で、子供にお話をしてきかすことと、そのお話に對する幼児たちの反應を記録することを命ぜられたのである。この記録をとつてゐるうちに、女史は、然しこの實驗學校の「童話新聞」に疑問をいだきはじめたのである。

ニューヨーク市の實驗學校幼稚園は當時ルシー・スプレীগ・ミッチェル女史の主宰するところであつた。ミッチェル女史の童話理論及實踐は「いまこゝ童話集」及「續いまこゝ童話集」の二巻にまとめられているが、その主張は次のように要約することが出来る。

(1) 二歳から六七歳までの幼児に對してはグリム、ペロウ等の昔噺は適當でなし。

(2) このような昔噺——むかしむかしあるところにはじまるお話の代りに、存在の身近な生活に取材した、「いまこゝ」here and nowの話が提供されなければならぬ。そうしてこの主張の根據とするところは次のようなもので

あつた。

(イ) 昔噺は小さい子供にはわかりにくいものである。自動車はしり、ヒョーキのとぶ世の中に、蛙の王様やカリフの鶴の物語はわかりにくい。おひめ様や王様の生活は子供の生活にあまりに縁遠くて、子供の理解をこえてゐる。

(ロ) それはわかりにくい許りではなく、道徳的に有害さえある。昔噺は民族の昔の生活にとつては不可欠の教訓を提供したかも知れない。だが、それは今の子供にはあわな。第一それは残酷すぎる。ジグフリードの物語などは子供にはおそらくたえられない刺戟であろう。第二に、そこには今の子供にまねてもらいたくない行爲がある。(ウ) ソツキ、人をベテンにかけること等) 第三に、そこには子供がまねていけないだけでなく、今の世では絶対にさげなければならぬ道徳律が平氣でやぶられている(近親相姦等)

(ハ) 東洋の道徳的意味がこのように子供に有害である許りでなく、昔噺にもられてゐる呪術的世界観は今の世の中の支配的世界観たる科學的原理と對立し、これを養う上に障害になることを保しがたい。昔噺でそだてられた子供は科學的原理を學ぶために二重のほねおりをしなければならぬ。即ち、呪術的世界観をすてることと、科學的世界観を獲得することである。それ位なら、始めから——勿論子供の知性の範囲内であるが——科學的世界観をおしえるに如かなく。

(ニ) 昔噺には以上のような缺點があるが、子供が話をこのむ以上、それなしにはすまされぬ。だから新しい話を子供のために「創作」してやらねばならぬ。この創作幼児童話は昔噺の缺點をのぞいたものでなければならぬから、従つてまず第一に、子供の生活に近い、子供の理解力範囲内にあるものでなければならぬ。

(ホ) このような現代の子供の生活に取材したものならば道徳的にいつても昔噺のような心配はないし、又科學的な方面でも呪術的世界観をおしえこんでしまふ、というようなおそれはない。時は現代なのであるから、始めから科學の世界が、子供の理解の範囲で展開されるのである。

(ヘ) 但し昔噺がいけない、というのは子供に對してのことであつて大人が新しい幼児童話を創作するために昔噺の研究をする必要は非常にある。よく人々は昔の人間と今の子供の心性の間には共通點が多いから、という理由で、昔噺は今の子供に理解され、共鳴される筈だ、という主張をするが、これは理論的にも實際的にも事實でない。第一、神話は今の學者にも仲々理解しがたいものなのであつて、そんなな子供にたやすくわかるものではない。更に、昔噺と、今の噺と兩方を子供にしてその反應をくらべてみると、今の創作童話がうまく出来ていれば、昔噺よりすつとよることばれるものである。

大體以上のような論據にもとずいてミッチェル女史は昔噺

をしりぞけ、「いまこゝ童話集」二巻を編纂するにいたつたのである。「いまこゝ童話集」はニューヨーク市の實驗學校で實際にころみ、成功した話ばかりを集めたものであるが、それはなる程子供よろこび相な題材が、子供にうけ入れられ相な形式でかたられてゐる。但しそれは英語の特色を非常によくかした「詩」のようなもので、翻譯が極端に困難なのを遺憾とする。

たしかにこれは革命的な童話理論であつた。今までドイツやフランスでも昔噺の教育的價値に否定的態度を示すものがないではなかつた。然しそれらは結局昔噺を全面的に否定することにならず、その現代的改作に従つてゐるのである。たとへば「赤ずきん」が殘酷だといふので、終りをハッピーエンドにするなどという程度であつた。

ところがミッチェル女史のは昔噺をほとんど全面的に否定し、その代りに現代の創作童話をもつてしようとするのである。

この本はこの革命的意義にふさはしく、實に調子の高い名文であつて、その説の當否はしばらくおいて、讀者に一種驚嘆の念をおこさせる程のものである。おそらくミッチェル女史の教育的熱情が我々讀者の胸にじかにせまつてくるのである。

とも角このミッチェル女史の主張は二つの面をもつてゐる。一つは昔噺の排斥の面、他の一つは今の噺の創作の面、それが「科學的世界觀」を教育するもの

でなくてはならぬとする面である。

さて、ブラウン女史は、實驗學校で童話の仕事をしてゐるうちに、この第二の面に疑問をもち出したのである。昔噺が今の子供にとつてよい内容のものばかりでないことはたしかであらう。だが、今の創作童話が事實にもとずいたもの語りでなければいけない、というのは正しいであらうか。子供の科學的世界觀を養うには、觀察法のようなものでなければいけないのだらうか。もつと大きな空想。もつとぼんやりした、せせつこましくない氣持をやしなうことが、子供にとつて有害であらうか。

このような點から彼女は子供の生活とはあまり直接の關係はないが、然し子供の關心のまゝである對象、即ち「動物」を主題とする話を書こうと考へついたのである。

結果は大成功であつた。子供はブラウン女史に追隨した。出る本も出る本も子供のうけ入れるところとなつた、ということが、ブラウン女史の考への正しさを證明した。

だが、我々はここではつきりとしらなければならぬ。ミッチェル女史の童話理論がなければブラウン女史のこの空想的な、面白い童話は生れなかつた、ということ。ブラウン女史の童話はミッチェル女史の童話のアンチテーゼ（反對物）であるが、しかもこのアンチテーゼはミッチェル女史のおかげで生れてきたのであるということ、そうしてミッチェル女史の童話理論が、子供の科學的觀察にもとずくものである限

りブラウン女史の童話は「科學的童話」の揚棄のようにみえるが、實際は科學にもとずいてはじめてこの科學の克服、科學の揚棄が行われたのだ、ということである。

○ 日本の幼児童話は目下混沌状態にある。この混沌を脱するには、天女の出現をまたねばならない。それはわかり切つたことであるばかり幼児童話に關する限り、天才はひとりでは出現しないであろう。ブラウン女史の天才はミッチェル女史の科學に依存したように、日本の幼児童話も、その基礎に幼児の科學的觀察をもたなくては本當の開花をもち得ないのではあるまいか。

## ○新保育講座

愛育研究所と東京女子經濟專門學校と共同主催で、次の要項により新しい保育内容の研究講座が計畫せられた。

期日及時間

昭和二十二年十月二十一日から十二月廿三日迄

同 二十三年一月 十日から三月二十三日迄

の毎週土曜日午後一時半—四時

課目及擔當講師

課 目 回 勤 擔 當 者

學校教育法及保育要領について 一 文部省初等教育課長 坂元彦太郎

新保育原理 二 愛育研究所教養部長 山下俊郎  
 幼児心理學 二 愛育研究所員 森脇 要  
 保育環境論 一 文部省囑託 功刀よし子  
 保育環境論 一 功刀よし子  
 幼児のリズム 二 津田塾學校教授 中島孝子  
 二 Y・W・C・A 福岡 敏子  
 二 文部省視學官 諸井三郎  
 二 文部省事務官 上澤謙二  
 二 文部省事務官 山形 寬  
 二 愛育研究所長 齋藤文雄  
 二 功刀よし子  
 二 山下俊郎  
 二 竹田 敏雄

計 十八回  
 會 場 中野區本町通六丁目三十三東京女子經濟專門學校  
 省 線 中野 驛  
 都 電 高圓寺一丁目  
 都 電 高圓寺一丁目  
 會 費 百圓(但日本保育研究會員八十圓)  
 申 込 期 日 及 申 込 場 所  
 開 講 前 日 迄 に 會 費 を 添 えて 愛 育 研 究 所 教 養 部 まで  
 定 員 百 名